

特別決議)

戦争準備のための大軍拡・増税を許さず、岸田内閣を退陣に追い込もう ～戦争の準備ではなく、平和の準備を！～

ロシアによるウクライナ侵略開始から1年あまりが経過しました。平和と人道を求める国際社会からの戦争中止を求める声は途絶えることなくつづいています。

こうした情勢を逆手に取るかのように閣議決定された「安保3文書」では、違憲の敵基地攻撃能力の保有や、軍事費を5年間で4.3兆円に増額するなど、軍事対軍事による対立構図があらわになっています。日本が大軍拡路線をひた走る政府予算を成立させたことは、アジアと日本の平和を危うくするものであり、決して許されることではありません。

また、大軍拡予算捻出のために地域医療やコロナ対策を担っている国立病院機構などの積立金や、東日本大震災の復興財源である復興特別所得税を軍事費に流用する「軍拡財源法案」も国会で審議されています。こうした動きは、当然社会保障費の大幅な削減や増税につながる危険な道です。

さらに政府は戦後初めて、防衛関係施設整備費と艦船建造費を建設国債の対象にしました。かつて大量の国債発行が侵略戦争拡大につながった歴史の教訓に背くものです。

広島市の平和教育教材から「はだしのゲン」や「第五福竜丸」が削除された問題も、こうした流れの中にあるものだと考えます。なぜならば、長い歳月をかけて市民に受け入れられてきた価値ある教材を削除するという行為が、歴史の真実に向き合おうとしない日本政府の姿勢と重なり合っただけでなく、見えてくるからです。

岸田政権が進める大軍拡は、国民の暮らしとともに、戦後幾多の困難をのりこえながら営々として築き上げてきたアジアと日本の平和を破壊するものです。

戦争準備のための大軍拡・増税を許さず、平和と民主主義を求めるヒロシマの声をさらにいっそう大きくし、岸田政権を退陣に追い込みましょう。

昨日から開催されている「G7 広島サミット」では、日本政府と参加国に「核兵器禁止条約に参加を」の声をとどけ、「核抑止では平和はつukれない」と世界に発信しましょう。

全教広島第38回定期大会は、「教え子を再び戦場へ送るな」の決意を新たにするとともに、被爆地ヒロシマの教職員組合として世界の戦争終結と平和実現のためにこれからも奮闘していく決意を表明するものです。

戦争の準備ではなく、平和の準備を！

憲法9条を無傷で次の世代へリレーしよう！

教え子を再び戦場へ送るな！

右、決議します。

2023年5月20日 全教広島第38回定期大会